

松本市広報R7-11

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社プラルト

公民館報

発行
2025

11/30

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 76

みこし

晴れた空に御輿が舞う

まつもと市民祭 松本まつり
イベントが彩る文化の日

(撮影 2025.11.3 大名町)

歌い続けて30年

第30回長野県童謡・唱歌フェスティバル松本大会

10月13日、キッセイ文化ホールに県下各地から観客・出演者それぞれ350人が参加し、30周年を迎えた記念大会が盛会に開催されました。

フェスティバルは1995年に始まり、約3000人を集めました。1998年のブラジル移民式典では「童謡・唱歌が共鳴する忘れがたい体験でした」と大会事務局の斎藤俊子さんは語ります。

コロナ禍に1回中止しただけで継続されてきたフェスティバル。実行委員の方から人気の背景と今後への思いを伺いました。

生涯学習として

他市町村では音楽指導者の下に集う童謡・唱歌愛好者のサークル活動面が強いそうです。しかし、松本では公民館活動の生涯学習として始まりました。更に各地区にピアノが寄贈されるなど、練習や発表の環境が最良でした。そこには行政との協力関係があり「歌う集いは地域づくりに通じる」という共通の理解があったからです。



共に創立30周年の童謡唱歌・歌うモナミと神林ひばりの会、菅野小学校の児童と発表

悩みはあっても

30年から40年もの歴史をもつサークルがいくつもありますが、どこも高齢化に伴う会員減少は否めず、また若い世代の加入が悩みの種です。男性会員不足も課題ですが、サークルを超えた有志の男声合唱発表が7年続いており、大変好評です。工夫次第で明るい展望も見られます。

子どもたちと共感を!

フェスティバルには、SK松本ジュニア合唱団が参加し



7回目を迎えた「歌おう!童謡・唱歌」は満席(撮影:2025.07.05 あがたの森講堂)

ていますが、子どもたちの音楽会に積極的に参加する社会人サークルもあります。子どもたちと交流し「童謡・唱歌を歌う楽しさ」を共感できる機会を前向きに探っています。

また、7月1日「童謡の日」にちなみ『日本のうた101』(のぼら社)の中から市内13団体が2曲を持ち寄り歌い合う『歌おう!童謡・唱歌』という催しも行われ、好評です。

唱歌「ふるさと」の原風景に戸惑う子どもたちですが、東日本大震災の際に子どもたちが自然発生的に童謡を歌ったとのエピソードを紹介し、三原寿雄実行委員長は「童謡はいつしか心象としてインプットされる」と期待を込めて語りました。

わがまち自慢 入山辺地区 みやかいどうえんてい 宮海道堰堤



昭和14(1939)年完成
国内初期のアーチ式砂防堰堤



堰堤頂部:アーチ型の石積み

美ヶ原高原に連なる三峰山を源流とし、松本市街地を流れ田川と合流する一級河川の薄川。堰堤はその上流にあり令和6年12月3日に登録有形文化財に指定されました。

薄川は過去に幾度となく氾濫しており、上流の土砂対策として堰堤が造られました。現地の露出した岩盤環境に効果的なダム工法であるアーチ式が採用されました。

以来80年以上にわたり堰堤は薄川沿岸の住民を洪水から守っています。

指定を受け、入山辺公民館は講座「宮海道堰堤を見学しよう!」を開催しました。住民20人程が参加し、市文化財課の職員から説明を受けました。参加者からは「貴重な堰堤が地区にあることを誇りに思う」という感想が聞かれこの様子は公民館報の地区版に掲載されました。

取材の最後に柏原せつ子入山辺地区地域づくりセンター長は「今後は関係機関に働きかけて遊歩道整備など安全対策を進めていただき、より多くの人にこの堰堤を見てほしい」と話しました。



安全対策をして見学 堰堤を背景に

*堰堤周辺には民有地や危険な箇所があります。詳細は入山辺地区地域づくりセンターにお問い合わせください。

TEL 32・1389

視点 ②4 松大×上土

実践で学ぶ まちづくり

大正ロマンの雰囲気漂う町、上土。そこで、学生がまちづくりを実践しながら学びを深める、松本大学の取り組みを紹介します。

カフェあげつち

総合経営学部^{しらかとひろし}の白戸洋教授はおよそ20年間、上土との関わりを続けてきました。住民の方々とイベントを企画するなかで、継続的に地域に関わる取り組みをしたいという学生の声が挙げられました。そこで、「カフェあげつち」を開設しました。学生やボラン



下町会館1階の「カフェあげつち」

ティアを中心に営業しております。人々の居場所になっています。

地域から学ぶ姿勢

かねてより、上土では女性部のクリーン活動など、住民の方々が主体的にまちづくりを行っていました。そこに学生たちが加わり、お互いに学びを深め合っています。現在は、白戸教授のゼミ活動が総

新たな活動も

総合経営学部畑井治文教授のゼミに引き継がれています。

総合経営学部4年の水永悠斗^{みなみなぎはる}さんは、毎週カフェの手伝いをしています。その活動を通じて「地域の方の温かさや柔軟さを感じます」と話します。また、ゼミ活動の一環で上土を紹介する動画を制作しました。上土を舞台にした映像作品も制作中です。



制作した動画の1コマ
上土の魅力を発信



松大生制作の
動画は
こちらから!

写真でつづる まつもと今昔⑦0

～高校生の通学路～



(撮影：1996.4.16)

神明町はかつて道路が狭く一方通行で、小売店が並んでいた。公園通りも狭かったが、その頃は車が少なかったので、高校生たちの通学路として利用され、各高校名を付けて〇〇街道などと称していた。



(撮影：2025.3.15)

市街地再開発により、道路も歩道も整備され松本中央通りとなり、西堀町まで通行可能になった。今でも国府町と交差する手前に数十メートルだけ、当時の神明町通りが残っている。

旧町名碑めぐり ③

東町

「親町三町」の一つです。お城の東側なので、東町と呼ばれました。善光寺道に沿って、女鳥羽川の大橋から北に広がる宿場町です。旅籠屋や安く泊まれる木銭宿、商人や定飛脚の宿などが多く、大変にぎわいました。村役人の職務機能を備えた郷宿も整備されていました。



おこひる

シネマ・チュプキ・タバタという名の映画館がある。日本初のユニバーサルシアターだ。チュプキとはアイヌ語で「自然の光」を意味する。誰にでも平等に降り注ぐ、太陽や月の光のこどだ▼はじまりはチャップリンの「街の灯」を、目の見えない人にも楽しんでもほしいとの願いからだ。その延長線として、耳の聞こえない人や車椅子の人、子育て中の人など、全ての人にひらかれた映画館が設立された▼娘の同窓生にブラインドサッカーの選手がいる。目の見えない方とサッカーが結びつかなかった私にとって、彼の活躍は新しい世界を見せてくれた。しかも彼は言う。「サッカーをしていれば、思いきり走れるんです」と。その言葉に触れて、健常者である自分の視野の狭さを知った▼このところ私の手仕事教室に新しく入会されたのは、皆70代である。また、今まさに入会のご相談を受けているのは、87歳の方だ。人の可能性を勝手に決めずにはならないと、今さらながら気付かされる毎日を送っている。

再発見!! まつもと地名がたり 14

4つの地名からひと文字ずつ 寿地区

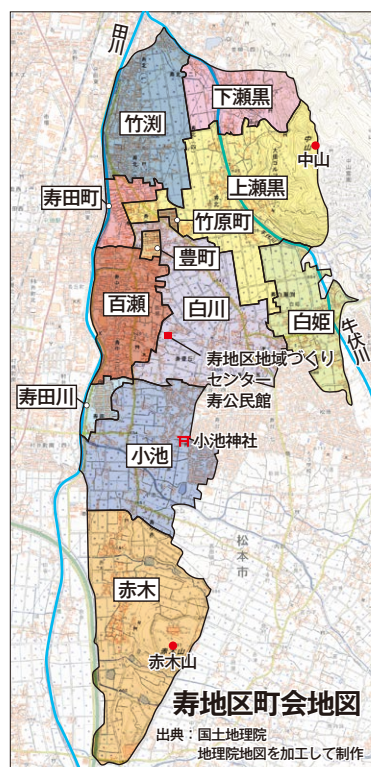
地元の願いを込めて、小池の「こ」、豊丘の「と」、白瀬の「ふ」、赤木の「き」で「寿村」が誕生

寿地区は鉢伏山の西麓に位置し、赤木山、中山(瀬黒山)または法螺貝山の丘陵と、田川、牛伏川に囲まれた地域です。

赤木山麓には旧石器時代から人が住み、弥生時代には田川沿いに水田がありました。一方で、牛伏川のため重なる氾濫や、干ばつに苦しめられた歴史もあります。

歴史ある町名

中世の文献には、行政単位である「郷」の名称として、赤木、小池、百瀬、白川、白姫、瀬黒、竹瀬の記載が見られます。地名の由来は次のように



寿地区町会地図
出典：国土地理院
地理院地図を加工して制作



現存の小池神社は享保7(1722)年に建替え

新しくできた町名

調整で上瀬黒、下瀬黒に分村。竹瀬・「竹」または地頭の屋敷「館」からの転化とされる。

明治になり、9か村が合併して「豊丘村」となります。その後、小赤村・豊丘村・白瀬村に分村。明治22(1889)年、再合併で寿村が誕生しました。長野県へは、この3村から「こ」「と」「ふ」を取り、新しい村名にしたと報告されていますが、地元では4つの地名からの語呂合わせともいわれています。

団地造成による世帯増加を受けて、昭和の半ばには寿田町、豊町、平成に入り竹原町、寿田川の各町会が発足し、現在の12町会となりました。

寿は古くからの歴史を基に、新しい町が次々と生まれる地区となっています。

松本平の野鳥たち



ゴジュウカラ (2019年9月松本市入山辺三城 写真提供:信州野鳥の会)

スズメよりやや膨らんだ大きさの小鳥。頭から背・尾は灰青色で眼を通る黒線が目立つ。この鳥の最大の特徴は、木の幹を下を向きながら降りてくることができる。「フヒィ、フヒィ、フヒィ」「ピピピピピィ」などと大きな声を出す。留鳥で、アルプス公園ではキツツキの穴を利用して繁殖もしている。

まつもと散歩

かがやく笑顔と
ひろがる夢が
みんなの未来をつくるから



(撮影：2025.10.18 梓川支所南側駐車場)